

News Letter 第15号

2012 年 11 月 1 日発行



# 会津若松における ミッション

# 幼稚園教諭のための リフレッシュプログラム

- 🥜 司祭 濱生正直(九州教区)
- 村上真澄(福島市 幼稚園教諭)

若松聖愛幼稚園から嬉しいお便りが届きました。新園舎の建築が始まったのです。夢と希望の溢れるお便りです。一方、放射能汚染を危惧する家族が、聖愛幼稚園に転園して来ています。新園児を迎える嬉しさと裏腹に、園児を見送らざるを得ない幼稚園、保育園の寂しさ、苦しさを思います。

先の見えない不安の中、大きなストレスを抱えながら、それでも笑顔で保育に携わる教諭たちの姿があります。そんな教諭たちに日常から離れてもらおうと、九州での「リフレッシュプログラム」が実施されました。九州教区で働く教諭たちの発案で実現したものです。「遠いと思っていた福島が近くになった」との言葉を励みに、保育現場で働く人たちの教区を超えた交流が今後も継続できるよう、「いっしょに歩こう!プロジェクト」も応援をし続けたいと考えています。

# 若松聖愛幼稚園 新園舎建築 ~イエス様の幼稚園として歩み続けるために~

### 司祭 ステパノ 越山哲也 若松諸聖徒教会牧師/若松聖愛幼稚園チャプレン

若松諸聖徒教会は今年宣教 110 周年を迎えました。教会附属の若松聖愛幼稚園は創立 103 年を迎えます。建物の構造は2階建てで1階が園舎、2階が礼拝堂の築 100 年を超える木造建築でした。この度、皆様からの本当に大きなご支援によって新園舎を建築することが出来ますことをこの紙面をお借りして心より御礼申し上げます。

この計画は若松宣 教プロジェクトの中 でこれまで 10 年間を かけて検討を進め、信 徒の皆さんがコツと 毎月の月約献金 とは別に建築献金(若 松宣教プロジェクト



献金)を捧げてくださり、幼稚園でもバザーや夏祭りの売上金を将来の建築資金として捧げてくださいました。また、将来の新しい建物を見ずに主のもとに召された信徒のご家族よりの記念献金もすべて建築資金としてきました。その意味で教会員と幼稚園教職員、保護者が建築に向けて一丸となってこれまで歩んできました。

東日本大震災は老朽化した園舎と聖堂に大きな ダメージを与えました。会津若松は震度5強という 強い揺れでしたが、ほとんどの柱に亀裂が入り、床 と壁の設置部分が剥離し、建物も若干傾きが見られ ました。幸い倒壊は免れ、会津若松市の罹災証明判 断でも「半壊に至らず」との判定で、もしもう一度 東日本大震災級の大地震が発生すると倒壊の危険 にあるということでした。その事を鑑みて園の存続 について真剣に考えました。結論として100年を越 えて会津若松の地で聖公会の福音宣教の最前線で 日々イエス様の幼稚園として歩み、地域の方々や多 くの卒園生を始めとする関係者、そして何よりも今 まさに「聖愛幼稚園」を必要とし、信頼してお子様 を預けてくださっている在園児の保護者の皆様の ためにも園を閉じるのではなく、1日も早く新園舎 を建築することが若松諸聖徒教会の社会的責任と いう点からも使命だと信じ、建築に向けて歩み出す ことになりました。東北教区も「若松聖愛幼稚園建 築」を最優先に取り組むべき事として東北教区宣教 強化資金より大きなご援助を頂きました。また、日 本聖公会「いっしょに歩こう!プロジェクト」から も大きなご援助を頂きました。これらは、すべて皆 様からの尊い献金であることを私たちは心に刻み、 忘れません。

新園舎は、学校教育法「幼稚園設置基準」で定められている内容に合わせて、園舎や園庭などを整備し、将来の学校法人化を見据えた建築となります。

これまでの進捗状況ですが、建築のために必要な 教会の受聖餐者総会や東北教区の教区会での承認 を頂き、6月8日(金)に加藤主教様の司式で「礼 拝堂聖別解除の祈り」を行い、8月6日(月)より 解体作業が行われました。そして、9月8日(月) に起工式を行い来年2月の完成に向けて今工事が 進められているところです。



現在の保育は、会津若松カトリック教会の信徒会館を仮園舎としてお借りし行っています。

また、教会の礼拝はインフォメーションセンター (敷地内にある建物)を「若松諸聖徒教会礼拝所」 として行っています。新園舎完成後は、幼稚園の遊 戯室で当面の間は礼拝を行う予定です。将来の礼拝 堂の建築計画もこれから考えていかなければなり ません。

今回の計画の中心にあることは、「子どもたちの 命を守る」ことです。

東日本大震災による原発事故によって、放射能という未知なるものとの闘いを余儀なくされている 福島県の中で会津若松に避難されてきている数家 族が聖愛幼稚園に転園してきています。その数は今後も増えていくと思います。また、放射能に対する 思いは人それぞれです。聖愛幼稚園ではできる限りきめ細かに誠実に対応し、声の出せないでいる保護者の方々の不安をできる限り受け止めていきたいと思います。そのことが創立 100 年を超えて会津若松の地に根ざしてきたイエス様の幼稚園のこれからの使命だと信じます。未来を担う幼子を預かる場として、イエス様の愛で抱きしめること、それを体現できる幼稚園として歩んでいきます。

# 九州より

## 司祭 パウロ 濱生正直

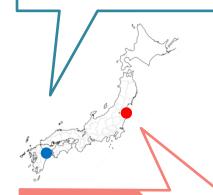
九州教区東日本大震災被災者支援室では、「夏休みを利用して放射能の影響で野外活動が困難な子どもたちに、一時的にでも九州の自然の中で思いっきり遊んでもらい、ストレス解消をしてもらおう」という計画を立てました。

草ヶ江幼稚園(福岡市)の「聖書の学び」の中でその計画が話題になります。すると、教諭たちから「子どもたちのストレスを解消することも大切だが、毎日幼稚園で働いている先生たちも大きなストレスを感じて保育をされているはず」との指摘がありました。「子どもたちの受け入れ」と並行して「幼稚園の教諭たちの受け入れ」ができないものかが協議されます。早速、「いっしょに歩こう!プロジェクト」に相談しますと、支援をして下さるとの返事でした。計画を進めていく中で、九州教区の5つの幼稚園(九聖保協議会)、日本聖公会保育連盟、教区内有志のご協力と広がりが大きくなっていきます。

8月6日(月)から10日(金)、4泊5日の交流が始まり、9名の先生 方が福島からおいでになりました。少しでも経費がかからないように と新幹線の利用でした。長旅でお疲れでしょうが、福岡市を中心に、 湯布院、九重、阿蘇を回られました。第1日目と最後の夜「交流会」 が行われ、福島の幼稚園や子どもたちの報告、芸達者な者たちの出し 物、しんみりしたり笑いこけたりの楽しい時間を過ごしました。お呼



びしました九州教区の者たちが、沢山のお恵みをいただきましたことを感謝しています。福島は遠いと思っていましたが、近くに感じることができ、「福島」を真剣に考えていかねばと思っています。



# 幼稚園教諭リフレッシュプログラム in 湯布院





# 福島より

# 村上真澄 学校法人みその幼稚園 教諭

九州研修を終えての率直な思いを述べさせて頂こうと思います。

あの大震災と原発事故より漸く、1年半が経過しましたが、福島県内の教育現場においては今も尚、 放射線問題に悩まされております。そんな中、福島県の幼稚園教諭を対象にリフレッシュプログラムを 計画して頂いた事を知り、大変有り難く、嬉しい思いで一杯でした。

ちなみに、当園は園長、事務を除く職員5名全員で参加させて頂きました。

観光ガイドを見ながら心待ちに当日までを過ごし、向かった九州。福岡駅に到着し、九州教区の司祭様はじめ現地の幼稚園の先生方にお目にかかった時から私共のリフレッシュが始まりました。

多くの観光名所に連れて行って頂きました。またガイドブックには掲載されていないような場所へも 案内して頂きました。5日間多くの自然に触れあうと共に、美味しい食べ物に心も体も放射能の事を忘れて満喫する事が出来ました。特に、阿蘇山へ行った時、火口が見えた時は一番興奮しました。

九州教区の皆様やいっしょに歩こう!プロジェクトの皆様、幼稚園の先生方に歓迎して頂き交流を図れた事も私達にとって大変貴重な思い出です。お互いの情報を交換し、共感しあったり、こんなに離れている福島の事、そして私達の事を考えてくれている。「一緒に頑張りましょう!」と言ってくれた言葉に胸が一杯になりました。

福島から遠く離れている場所にも応援してくれるこんなにも素敵な仲間達がいます。

私達にとって心も体も満たされるかけがえのない時間となりました。

10月からは2013年度の園児募集が始まりますが九州での5日間を心の糧として神様の幼稚園に携わる教諭としての自覚をしっかり持ち、これからも福島の子ども達を育んで参りたいと思います。

また、皆様に再会できる日を心待ちにしております。

この度は、本当に素晴らしい研修をありがとうございました。

プロジェクトが、どこを、誰と歩いているのか知ってほしい! これまでご紹介したプログラムのその後など、現在の活動の様子をお伝えします。

### ■沖縄県/ホームステイプログラム計画中

沖縄教区が被災地の皆さんのリフレッシュのために、ホームステイプログラムを計画中です。通年受け入れ態勢を作り、家族ぐるみでこの機会を活用してもらおうとしています。プロジェクトでも資金面などのお手伝いを考えています。

### 新スタッフ紹介

アメリカ聖公会から 1 年間の研修の ために派遣された、ケイティ・ヤングです。 仙台圏オフィスで外国人支援を担当します。

### ■新地町(福島県) /庭にはニワトリ

新地ベースでは鶏を 19 羽飼っています。広畑仮設の方々が結成した「らちはまだいこんの会」がひなを注文し、広畑仮設に小屋を設置するまで



の期間、センターしんちで預かっていました。しか し様々な事情により仮設では飼育できなくなり、そ のまま鶏をセンターしんちの庭で飼うことになり ました。鶏の生んだ卵を放射能計測をした後、地元 の小学校や保育園などに差し上げています。

# ワークショップ「ひまわり」へのご支援、ありがとうございました! 日本聖公会婦人会会長 村井恵子



障がい者の通所施設「ひまわり」が、震災により大きな被災を受けて支援を必要としていることを知らされ、日本聖公会婦人会のネットワークを通してひまわりクッキーの購入支援をお願いしてから、もう1年以上が過ぎました。各教区婦人会、また、東京教区は支援対策本部から各教会婦人会へ呼びかけていただき、北海道から沖縄まで、教会や幼稚園などから続々とご連絡が届き、皆様の温かいお気持ちが伝わってきました。お陰様で今年の8月までの1年間、全国でひまわりクッキーを召し上がっていただくことができ、本当にありがたく思っております。これからもひまわりを憶えてお祈り下さると共に、ひまわりの製品をご愛用いただければ、引き続きの支援となり嬉しく存じます。

## 活動記録 (9/6~10/5)

### 仮設支援

- 体操プログラム/釜石市(上中島仮設)
- お料理会/釜石市(野田町仮設)
- ▲買い物バスツアー/名取市(箱塚桜団地)
- ◆ほっとコーナー(お茶会)/新地町(広畑仮設)
- ◆ほっこりカフェ/いわき市 (泉玉露仮設渡辺町昼野仮設)

その他にも…パッチワーク、ネイルアート、座布団配布、 談話室プログラム、俳句を楽しむ会、包丁研ぎサロン、 フラワーアレンジメント など

### 障がい者支援

- ▲買い上げ支援/仙台市(まどか)
- ▲作業補助/気仙沼市(ひまわり)

### 外国人支援

▲個別支援(子ども学習支援、刊行物の解説、職業安定 所などへの付添い、他)/石巻市、多賀城市、仙台市

- ▲英会話教室開講支援/名取市、仙台市
- ▲手作りプログラム/南三陸町
- ▲日本語教室/仙台市
- ▲リフレッシュプログラム/仙台市
- ◆日本基督教団エマオに放射能検査依頼/仙台市

### その他

- ▲ナザレの家、青葉静修館などの物資整理/仙台市
- ◆スーパーハウス回収/仙台市

貸与支援をしていたスーパーハウス\*は、地震の被害を 受けた仙台市岩切で、自宅の再建工事等の間に住まい や家具保管として使用されていた。支援していた7棟 全ての住宅が完成または転居したため全棟を回収し た。(\*移設可能なプレハブ式ユニットハウス)

●岩手県 ▲宮城県 ◆福島県内の活動を示します。紙面の都合上、掲載されていない活動もあります。詳細は各ベースのブログをご覧ください。

ホームページ: http://www.nskk.org/walk/



いっしょに歩こう! プロジェクトニュースレター第 15 号 2012 年 11 月 1 日発行
「いっしょに歩こう! プロジェクト」事務局 OPEN 月~金 10:00~17:00 CLOSE 土・日・祝
〒980-0803 宮城県仙台市青葉区国分町 3-4-5 クライスビル 2F TEL:022-265-5221 FAX:022-748-5321
E-mail:walk@nskk.org ホームページ:http://www.nskk.org/walk/